

TPPの風雲急

TPPをめぐる動きが大きな山場を迎えています。農民連本部からの文書を転載します。

TPP情報 2010年11月2日 農民運動全国連合会

国会座り込みと議員要請

本日、農民連は国会座り込み行動と議員要請行動で、「TPP参加阻止」の強いメッセージを発しました。座り込みに対して、通りかかる与野党議員から「私も反対です。がんばりましょう」の激励が相次ぐ一方、推進派の議員が逃げるように走って通り過ぎるなど、攻防を反映した反応が示されました。また、JA関係も上宗団が組織されていて、地元議員への働きかけを精力的に展開し、座り込みへの激励が相次ぎました。

衆参の全農水委員への要請行動では、秘書を含めて全議員が反対の意思を示し、石津政雄議員（茨城1区・民主党幹事長補佐）に至っては、民主党プロジェクトチームが意見集約を先送りしたことをあげ、「もう取りまとめは不可能。自分も村長経験があるが、物事を決めるときに結論を先送りするというのは追い詰められたとき。『偽政者』は相当、揺れている」といいます。

このように、情勢は緊迫の度を高め、最後は世論が決するという状況になっています。更に運動を強め、TPPの息の根を止めるまでたたかい抜きましょう。

民主党の動きについて

民主党の「TPPを慎重に考える会」（山田正彦議員）は、当初、11月1日に超党派による集会を開く予定でしたが、民主党の輿石幹事長や仙石代表代行などが「党が分裂する」として妨害して開催できなくなりました。このやり取りの中で、党としての意見のとりまとめを7日ないし8日に先送りする意向が表明されたといわれています。

先送りは、前述した石津議員が指摘するように推進側が世論に追い詰められた結果であり、重要です。与党議員のなかには結論を出すことを困難視し、両論併記しかないという声広がっているといわれています。

こうしたなかで民主党の「TPPを慎重に考える会」は、



里のギャラリー 176



国会前に座り込み、11月2日

本日、「勉強会」なる集会を院内で開いています。勉強会は事実上の「作戦会議」であり、議員秘書によると、11月5日に「会」として銀座でTPPに反対する街頭宣伝と議員デモを計画しているようです。

また、「TPPを考える国民会議」（代表世話人・宇沢弘文東大名誉教授、副代表・山田正彦議員）は、11月4日に憲政記念館で金子勝慶大教授を招いて「総決起集会」を開催します。問い合わせに対して「農民連・食健連の参加を歓迎する」としており、計画されている農民連の11月4日の行動のなかで合流することになりました。

また、11月7日には、超党派の議員と市民団体による集会（参院議員会館 14時30分から）が呼びかけられる運びとなりました。

地域と中央を結んだ行動を

党派を超えた反対の動きの広がり、44道府県と1474市町村の反対ないし慎重決議、各界各層の団体が反対に立ち上がり、新たに日本医師会も反対運動に立ち上がっています。こうした状況は、客観的には野田内閣がTPP参加を強行できず、仮に強行するなら「内閣がもたない」ことは明らかです。しかしながらアメリカの「使い走り内閣」であるがゆえの暴走であるだけに予断は許しません。

TPP反対11・10 中央行動(東京、日比谷野外音楽堂)に馳せ参じます。乗り合わせ可能です。